

# 長野県木曾町版

テーマ：木曾の宝物を未来へつなげ！  
制作：うみやまかわ新聞編集部木曾町支局（小学校5・6年生）

木曾町には、四季折々のたくさんのお祭りがあります。木曾でしか楽しめないお祭りを季節ごとに紹介します！

## かがやきあふれる

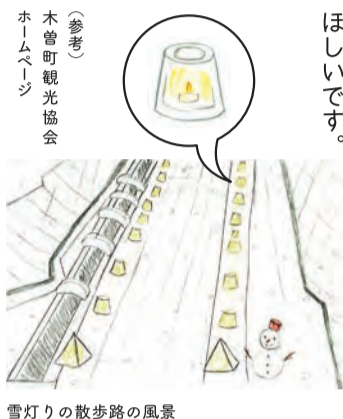
# 木曾のお祭り!!



みこしまくりの縦まくり

木曾町には四季折々のお祭りがあふれます。春はお花見をしながら、郷土芸能を楽しめる「義仲の里」さくらまつりがあります。また、木曾福島地区にある興禅寺のしだれ桜はとて有名で、夜はライトアップされ昼とはちがう表情の桜を見ることが出来ます。夏は「水無神社例大祭」があります。このお祭りでは、赤松でできた約400キログラムのおみこしを20人前後で担いで町内を周り、最後にはおみこしをこわしてしまおう「みこしまくり」が行われ、奇祭と呼ばれています。秋は山で採れたきのこやきのこじを販売する「きのこ祭り」が日義地区で行われます。冬は巨大なかまくらが並び、それでも遊べる「かまくら祭り」や、地域の人たちの手作りアイスキャンデルが置かれ、冬の寒い木曾町が暖かい光でいっぱいになる「雪灯りの散歩路」というお祭りがあふれます。

なかでも私が好きなお祭りは、水無神社例大祭と雪灯りの散歩路



雪灯りの散歩路の風景

です。水無神社例大祭は屋台がたぐさん出てにぎわいます。また、みこしが縦や横にまくりられる（転がされる）「みこしまくり」は迫力があります。雪灯りの散歩路では、地域の人たちが出す屋台でせんべいじりやマシユマロを焼いて食べることができ、たくさんの人達でにぎわうのでとても好きなお祭りです。

どのお祭りもたくさん魅力があり、木曾でしか楽しめないお祭りなので、これからも続いてほしいです。

取材協力  
木村信一（きむら しんいちさん 57才）  
信州木曾・水無神社みこしまくり水交會 会長

取材協力  
松永新（まつなが あらたさん 28才）  
木曾町観光協会地域おこし協力隊

（参考）  
木曾町観光協会  
ホームページ



木曾町の温泉

木曾町にはたくさん温泉施設があり、今回は「信州きそふくしま代山温泉」「せせらぎの四季」「木曾古道ぬくもりの宿「駒の湯」」「ホテル木曾温泉」「御嶽明神温泉やまゆり荘」「二本木の湯」の5カ所へ取材に行きました。それぞれの温泉施設のくわしい情報は表にまとめているので、見てください。

ぼくは、5カ所の温泉に入ってみて、それぞれの温泉の効能や泉質にちがいがあってもおもしろいと思えました。また、その温泉施設で働く人たちが一人ひとり思いをこめて働いているのが分かりました。

温泉名	効能数	感想	営業時間 営業日	住所
信州きそふくしま代山温泉 「せせらぎの四季」	14	人気料理を食べてもらったので、よかった。	10:00～21:00 水曜日	木曾町新開 3968-2
ホテル木曾温泉	19	ろ天風呂がとても温かかった。	11:30～20:30 不定休	木曾町三岳 9-57
御嶽明神温泉 やまゆり荘	8	おんたけ山が見えてキレイだった。	10:00～19:00 火曜日	木曾町開田高原 西野6321-1211
「二本木の湯」	6	お風呂から駒ヶ岳が見られてよかった。	10:00～19:00 木曜日	木曾町新開 6013-1
ぬくもりの宿 木曾古道 「駒の湯」	18	薬草の風呂があるなんてびっくりした。	11:00～22:00 無休	木曾町福島 47-2

取材協力  
笹川大健（ささがわ だいけんさん 39才）  
「信州きそふくしま代山温泉」せせらぎの四季」店長

取材協力  
深沢公（ふかさわ こうじさん 61才）  
「合同会社おもと木曾温泉代表社長」

取材協力  
原きよみ（はら きよみさん 65才）  
「木曾古道ぬくもりの宿「駒の湯」従業員」

取材協力  
榎原章（えのら ちやうさん 65才）  
（57才）「御嶽明神温泉やまゆり荘施設責任者」

## 思い出いっぱい 桜の木!!

私達が通う木曾町立福島小学校の校庭には、たくさん桜の木が植えられています。春になり桜が満開になると、近所の人達がお花見に集まり、学校ではお花見給食があります。用務員の奥谷正彦先生は、桜の木の周りに生えているコケ取り

や桜の木の消毒など、木の手入れをしてくださっています。桜の木は私達小学生を始め、先生方や近所の人に大切にされています。

2016年（平成28年）11月初旬、小学校のプールを町民プールとして建てかえる工事のため、4本の桜の木が切られてしまいました。長野県木曾青峰高等学校インテリア科の生徒たちは、その桜の木の存在を語りついでいきたいと、桜の木を使って小学生に届ける思い出の品を製作しています。

取材協力  
奥谷正彦（おくたに まさひこさん 72才）  
木曾町立福島小学校用務員

取材協力  
原明美（はら ともみさん 18才）  
長野県立木曾青峰高等学校インテリア科 工業クラブ

取材協力  
和木亜夕未（わき あゆみさん 18才）  
長野県立木曾青峰高等学校インテリア科 工業クラブ

## 木曾川の今と昔!!



木曾川は長野県から愛知県へ流れ、最後は伊勢湾に注ぎます。木曾町の流域に暮らす人々にとつて、木曾川は今も昔も仕事や生活で関わりのある川です。

昔は木曾の山で切った木を木曾川に流して、愛知県まで運ぶ「中乗さん」という職業がありました。運ばれた木は伊勢神宮を建てかえる時などに使われました。今では、木曾川の水は生活用水として中京けんに供給されています。他にも、木曾川のラフティングは地元の人や観光客に人気です。

昔も今も、木曾町や木曾川の流域にある地域は、木曾川を通して文化や生活、人のつながりを作ってきました。私達にとつて大切な川です。

取材協力  
原隆（はら たかしさん 62才）  
木曾町副町長 木曾木遣り後継

（参考）  
「木曾ノオト」（発行：木曾町）



木曾川沿いの町並み

「中山道」は東京の日本橋と京都の三条大橋を結ぶ街道で、木曾地方を通る部分は「木曾路」と呼ばれています。木曾町には海がありませんが、昔から中山道を通って、各地の海産物が木曾町に運ばれていました。その1つが「塩いか」です。昔は冷蔵庫がなかったため、くさらないようにゆでたかの中に塩をつめて木曾まで運んでいました。

木曾町ならではの食文化もたくさんあります。5、6月には朴の木の葉にごはんをのせて塩むすびにして食べる「朴葉むすび」があります。他にも、



朴葉飯

中山道のと真ん中に位置する木曾町。東西から運ばれてきた食文化があり、木曾ならではの郷土食文化がたくさんあります。

## 未来へつなげ!! 木曾の食文化!!

木曾在来種の赤カブの葉っぱを乳酸菌発酵させて作るつけ物「すんき」があります。木曾には海がなく、昔は塩が貴重でした。すんきは塩を使わずに作る事ができます。すんきは伝統的な食べ物として、今も冬になると作られています。木曾には中山道を通じて外から入ってきた食文化や木曾独自の食文化があります。海と山のおいしさがつまった食文化を未来に残していきたいです。



すんきがつけられる所



# 山梨県北杜市版

テーマ：山梨水明の王国、北杜  
制作：うみやまかわ新聞編集部北杜市支局（小学校4・5年生）

## 愛され続けている八ヶ岳



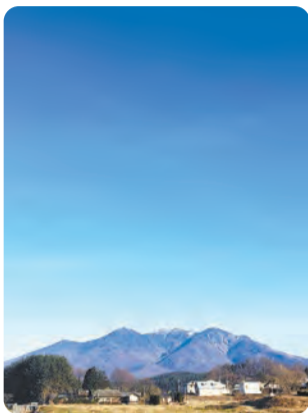
北杜市の人たちはきれいな八ヶ岳をよりきれいにしようと、管理や整備をしています。八ヶ岳はなぜ北杜市の人たちに愛されているのでしょうか。そのわけについて紹介します。

八ヶ岳は、実際は8つ以上のいくつもの山々が連なっています。主な山は天女山、三ツ頭山、権現岳、牛首山、赤岳、横岳などの山があり、最も標高の高い山は赤岳（2899メートル）です。

八ヶ岳の植物や動物について紹介します。日本では八ヶ岳にしかいない「ヒナリンドウ」という植物があります。ヒナリンドウは7月～8月にかけて白い花が咲ききれいです。しかし、今ではとても数が少なくなっています。かん境省のレッドリストで絶滅危惧I-B類（EN）に指定されている「ツクモグサ」は、見られたらラッキーという草で、八ヶ岳で発見されました。他にも八ヶ岳の森には「ダケカンバ」「シラカンバ」「ヤエガワカ



取材協力 本田晶（ほんだ・あきさん45才）  
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター、インタープリター



ンバ」という3種類の木が生えています。この3種類は生態のちがいで成長に適した場所があり、一緒に生えている森は少ないのでとてもめずらしいそうです。また、八ヶ岳の名前が付いた草もあるそうです。動物では天然記念物に指定されているヤマネや特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが生息しています。冬になると空気がすみ、きれいな青空になって「八ヶ岳ブルー」という空と雪のきれいな組み合わせを見ることができそうです。

今回、お話をうかがった山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでは、観光に訪れる人のために、かん境を整備しているそうです。また、坂道が多く自転車やマラソンをする人にも人気です。このように、めずらしい植物や動物に出会える美しい八ヶ岳だから人々に愛されているんですね。

## 水にめぐまれている北杜市

山梨県北杜市は山に囲まれ、きれいな水が多く、かん境省が選定する「名水百選」(※1)や「平成の名水百選」(※2)にも選ばれている所があります。今回は、そんな北杜市の水の中から、「サントリー南アルプスの天然水」について紹介します。



「サントリー南アルプスの天然水」は、山梨県北杜市白州町にある「サントリー天然水南アルプス白州工場」で地下深くから天然水をくんで、殺菌や検査、ボトルング、箱づめをして、山梨県だけでなく全国に出荷されています。

白州町の水はこう度(※3)約30のなん水で飲みやすく、すっきりとキレイがあり、さわやかな清りよ

う感が持ちようだそうです。白州町をふくむ南アルプスはユネスコエコパーク



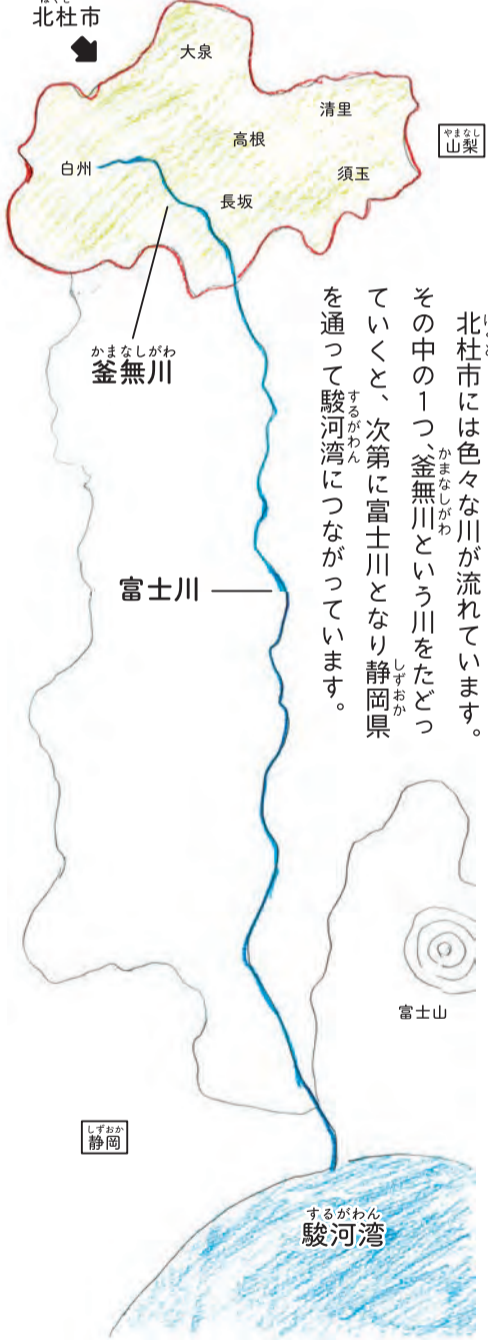
取材協力 大木恵（おき・めぐみさん）  
サントリー天然水南アルプス白州工場案内係

(※4)に認定され、豊かな自然に囲まれているので、すっきりとした、きれいでおいしい天然水が採れます。

北杜市には白州町の他にも、名水百選や平成の名水百選に選ばれている所があります。今回の取材で、北杜市はきれいでおいしい水にめぐまれていて、日本の中でもとて



## 北杜市の山から海に流れる川



北杜市には色々な川が流れています。その中の一つ、釜無川という川をたどっていくと、次第に富士川となり静岡県を通じて駿河湾につながっています。

(参考情報) 「定本富士川」(発行：郷土出版社) 「日本の川を歩く」(発行：家の光協会/著者：大塚高雄)



日照時間日本一の北杜市明野町にあるひまわり畑について紹介します。

### 日照時間 日本一の明野町のひまわり



取材協力 桶本隆男（おけもと・たかおさん62才）  
一般社団法人北杜市観光協会・事務局長

その結果、明野町は日本一日照時間が長いことが証明されました。明野町には約6ヘクタールのひまわり畑があり、約60万本のひまわりが植えられています。ひまわりは5月中旬から6月中旬ごろに種まきし、7月下旬から8月下旬の約1カ月間花を見ることが出来ます。ひまわりは、明野町が日照時間日本一ということを知ってもらうために植え始め、今年で25回目になります。このひまわり畑は映画にも登場しています。

## 国蝶オオムラサキってどんな蝶？

オオムラサキの生息数日本一の北杜市長坂町から、オオムラサキの持ちようを紹介いたします。



取材協力 瀧美友里子（たみとも・ゆりこさん28才）  
特定非営利活動法人自然とオオムラサキに親しむ会・学芸員



提供：北杜市

オオムラサキは北杜市にとって大切な蝶で、だれもが知っているくらい有名です。1957年(昭和32年)、日本昆虫学会によって国蝶に選ばれました。選ばれた理由は、姿の美しさと身近にいて親しまれていたからです。長坂町はクヌギ林やエノキが多く、冬は適度に雪が降りかん乾燥が少ないなど、オオムラサキが食料を確保しやすく、すみやすいかん境です。

オオムラサキは秋から春の約10カ月間、幼虫で、6月ごろにさなぎになり、7月には成虫になって産卵します。幼虫の時はメスとオスでちがいはありませんが、成虫になると、メスはオスより体が大きく羽は茶色になり、オスの羽の色は鮮やかな青で、お尻には目のような模様ができます。この模様は明るさを感じるセンサーなので、は？という説もあるそうです。

オオムラサキの卵や幼虫はエノキの葉の上で、成虫はクヌギの木の近くなどで見られます。成虫は晴れの日にひらひらと空を飛ぶように飛びます。運が良ければ見られるかもしれません。



# 滋賀県近江八幡市沖島版

テーマ：びわ湖と沖島

制作：近江八幡市立沖島小学校3〜6年生

## 日本最大のナマズ!!

## ビワコオオナマズ

琵琶湖には、ここだけにしかない魚がいます。ビワコオオナマズはその一つで、大きさは1メートル以上あります。昔はたくさんいましたが、現在はとても少なくなっています。



沖島は琵琶湖の中にあり、淡水湖に人が住んでいる、日本でただ1つの島です。琵琶湖には、ここだけにしかない特別な魚が10種類以上います。代表的な魚はビワコオオナマズです。ビワコオオナマズは体長1メートル以上ある、日本最大のとてもめずらしいナマズです。

昔、ビワコオオナマズは1.8メートル程の大きさが普通に見られました。しかし、今は魚のあみにかからない程、数が減ってしまいました。その原因を漁師の奥村繁さんに聞いてみると、自然かん境や人間の生活の変化が関係しているのではないかといいことでした。かん境が変わったせいで数が減った魚は、ビワコオオナマズだけではありません。イワトコナマズも数が減った魚の一つです。イワトコナマズはビワコオオナマズとちがい、大きくても60センチメー

取材協力 奥村繁(おくむら・しげる)さん(69才) 沖島漁業協同組合・代表理事組合長



トル程の小さなナマズです。かん境省のレッドリストにある準絶滅危惧種(NT)に指定されています。他にも琵琶湖には、ニゴロブナやビワマス、コアユなどがいます。ニゴロブナはとてもおいしい魚で、色々な食べ方があります。一般的な食べ方はふなずしです。他にはお造りにしたり煮たりして食べますが、どれもおいしいです。沖島小学校では、5・6年生が総合的な学習の時間にふなずしを作っています。ぼくは琵琶湖の魚のことをほとんど知らなかったのですが、魚のことを調べて良かったです。

## 世界につながる琵琶の湖

沖島小学校の校歌には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

近江八幡市立沖島小学校の校歌は、3番まであります。3番には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。この、とてもスケールが大きい歌詞について沖島小学校の卒業生の方々に話をうかがいました。校歌は60年以上前に作られ、世界でも湖の中にある島に人が住んでいるのはめずらしいという、ほこりを持った歌でいたそうです。

琵琶湖には118本もの一級河川が流れこんでいますが、琵琶湖から流れる川は瀬田川一本だけです。瀬田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考える人もいます。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。

田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考える人もいます。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。



取材協力 西居正吉(にしい・しょうきち)さん(82才) 沖島小学校卒業生 北ちか子(きた・ちかこ)さん(65才) 沖島小学校卒業生

## 人も固有種も困っている 外来魚問題



琵琶湖には外来魚がいます。外来魚は固有種を食べてしまうので、沖島では固有種が減ってしまい、問題になっています。



琵琶湖にはたくさん外来魚がいます。外来魚は元々、琵琶湖にいなかった魚のことです。主な外来魚はブラックバスやブルーギルです。外来魚には固有種を食べてしまうという大きな問題点があります。そのため、固有種が減ってしまい、いなくなる危険性があります。

取材協力 奥村繁(おくむら・しげる)さん(69才) 沖島漁業協同組合・代表理事組合長

そこで、1989年(平成元年)から滋賀県が外来魚の駆除を始めました。1年間で200トンぐらいの外来魚をつかまえています。その後、滋賀県漁業協同組合に連れられて、つかまえた外来魚を加工する会社がある広島県まで運びます。しかし、全ての外来魚を駆除できるわけではありません。なぜなら、琵琶湖には推定400〜500トンの外来魚がいるからです。漁師の奥村繁さんも「琵琶湖から外来魚が消えることはない」とおっしゃっていました。私達は、琵琶湖に近い沖島小学校に通っているので外来魚のことはよく知っていると聞いていました。知らないことも多かったので取材して良かったなと思いました。

## 昔から伝わる 元服の祭り



琵琶湖の中にある沖島には佐義長という祭りがあります。佐義長祭りは豊作を願うとともに、今ではめずらしい元服をお祝いするお祭りです。

沖島には、1年を通していくつかの祭りがあります。その中で有名なのが、小正月の1月15日に近い日曜日に行う佐義長祭りです。この祭りの意味は2つあります。1つ目は、元服(※)をむかえる人の儀式です。元服をむかえる人は、「サンチヨー(佐義長)」と呼ばれる竹と笹とわらで飾られたものに火をつけて燃やするという役割があります。最近では、若い人がたくさん島の外に出てしまっ

たので、元服をむかえる人がいなくなり、自治会や宮番の人が燃やすようになりました。2つ目は1年間の豊作を願うというものです。燃えて、たおれた「サンチヨー」の方角で大漁のうらないもするそうです。また、その火で古いお札やすめるめなども燃やします。実際に、数え年17才の時に元服をむかえ佐義長を経験した西居正吉さんは、「サンチヨーに火をつける時に元服以外の火を消されたりして大変だった」となつかしうに言っておられました。沖島のような島というかん境は、昔ながらの祭りを続けるのに適していると思います。

※ 昔行われていた男性の成人の儀式。おおよその数え年12〜17才で大人の仲間入りをする。

取材協力 西居正吉(にしい・しょうきち)さん(82才) 近江八幡市郷土史会

## 今年8月ごろ、琵琶湖を渡って来たイノシシに、沖島のさつまいもが3000本も食べられてしまいました。イノシシにさつまいもを食べられた

2016年(平成28年)8月7日、島で雑貨店を営んでいる富田ツヤ子さんの畑のさつまいも36本が、イノシシに食べられました。富田さんの畑がある辺りは千円畑と言います。昔、一区画(3メートル四方)が1000円だったことから、そう呼ばれています。千円畑の周りにはお家がないため、イノシシがよく出るそうです。元々、沖島にはイノシシはいません。島外から2キロメートルも琵琶湖を泳いで来たそうです。実際に泳いでいるイノシシを見た漁師さんもいるそうです。

イノシシはさつまいもなどの農作物を食べるだけでなく、土を深くほるので沖島の人は困っているそうです。富田さんは畑に電気が流れるさくを取りつけました。イノシシはさくを飛びこえられないので、さつまいもは食べられなくなったそうです。私はこれまでに3000本ものさつまいもをイノシシに食べられていたと聞いてびっくりしました。



取材協力 富田ツヤ子(とみた・つやこ)さん(80才) 雑貨店経営



# 岡山県真庭市落合地区版

テーマ：Future of the Project 目指せ落合のタイムトラベラー  
制作：真庭市立落合小学校6年生

私達が暮らしている岡山県真庭市落合地区には、かつてホタルがたくさん生息していましたが、今では数えられる程に減少しました。そこで私達はとなりの北房地区へ取材に行き、落合地区にホタルを呼びこむために何をすればいいかと決めました。

## 輝け！ホタルと落合の未来！

真庭市北房地区はホタルの名所と言われています。北房ホタル保存会会長の南條保之さんにお話を聞き、私達が暮らす落合地区でもホタルを見るために必要なことを3つにまとめました。

1つ目は、ホタルの主なえさとなるカワニナを増やすことです。ホタルは成虫になるまでに約30匹のカワニナを食べるので、たくさんのカワニナが必要なんです。そのため、北房地区ではカワニナの養いよくをされていました。落合でも同様にカワニナの養いよくをして、えさを増やすことがホタルの数を増やす最大の近道です。

2つ目は、ホタルの生態を知り、人間の活動を改めることです。ホタルの幼虫は川の中にいますが、約9カ月経つと上陸してさなぎになります。地面から約1センチメートル下の地中でさなぎになるため、河川じきで草焼きなどをすると死んでしまいます。また、ホタルは車のヘッドライトや街灯等の人工の光をさらいまいます。そのため、北房地



上：ホタル乱舞  
下：北房ホタル保存会取り組み「遮光幕」

区ではガードレール下にしゃ光幕を設置したり、ホタルに優しい光を灯す常夜灯を設置したりしています。ホタルの生態を知り、悪いいきょうをあたえないことが大切です。

3つ目は、地域の方々や行政の協力です。しゃ光幕や常夜灯の設置などには行政の協力が必要になります。また、地域の方々でホタルを守るための会を設立し、カワニナの養いよくや呼びかけ等の活動を行うことが必要だと思

今は、ホタルを呼びこむのは夢のような話ですが、これらの3つの活動を続けられれば、いつか「ホタルの飛び交う町、落合」と呼ばれる日が来るのではないのでしょうか。

取材協力 南條保之(なんじょう・やすゆき)さん(72才) 岡山県出身、北房ホタル保存会・会長

真庭市落合地区の未来をより良くするため、落合地区にある注連山の木の活用方法をご紹介します。

## 未来につながる注連山の木材



注連山のたおれた木を有効に使った時のメリット

落合地区にある注連山には多くの木がたおれています。たおれた木の活用方法について、真庭市役所林業・バイオマス産業課の佐山宣夫さんにお話を聞きました。たおれた木の活用方法として

バイオマス発電があります。バイオマス発電とは木くずなどを燃料として燃やし、水を蒸発させた蒸気でタービンを回して発電する仕組みです。落合地区にバイオマス発電所を作ると良いことが多くあります。1つ目は、たおれた木を使って発電した電気を売ることでお金になります。2つ目は、たおれた木を使うことで山道が整備され山に登りやすくなります。3つ目は、頂上の見晴らしが良くなることです。注連山の木材を有効に使って、未来の落合へつなげたいです。

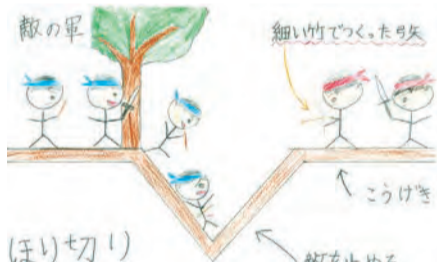
取材協力 佐山宣夫(さやま・のぶお)さん(48才) 真庭市役所林業・バイオマス産業課 参事

注連山は真庭市落合地区の中心にある高さ320メートルの小さな山で、戦国時代には「注連山城」という城があったと言われています。毛利氏、尼子氏、宇喜多氏、豊臣氏の軍が注連山城を取り合い、1日でも城にいる軍勢が変わったそうです。城にいる軍は注連山にある細い竹を使って弓矢を作っていました。また、急なしゃ面を利用して、相手がせめて来られないようにした他、城の近くにはせめてくる相手を一旦止めさせるためのV字の堀切りがありました。

私達は地域の方から昔、真庭市落合地区にある注連山に城があったことを聞きました。そこで注連山の歴史をいろいろな人に知ってもらいたいと思い、注連山の歴史を調べました。

## 伝えたい！注連山に昔存在した城

取材協力 芦田有正(あしだ・ありまさ)さん(60才) 岡山県真庭市落合出身、八百屋を営む。しゃ山プロジェクトのメンバーとして活動している。



堀切りで敵の動きをとめてこうげきしているところ

私達は、注連山を守る活動をされている「まにわ・しゃ山プロジェクト」のみなさんを見習い、注連山を守っていききたいと思

ら城を守るためのにせもの城があったとも言われています。

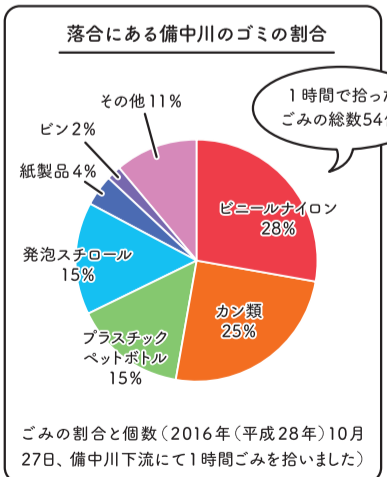
真庭市落合地区を流れる備中川は旭川に合流し、瀬戸内海へと流れ出ます。ごみを瀬戸内海に流さないためにも落合地区から水をきれいにすることが大切です。

## きれいにしよう備中川

真庭市阿口地区を源流とする備中川は長さ42キロメートルで、真庭市の各地区を流れて旭川に合流します。数年前の備中川は生活排水が原因できたなかつたのですが、2008年(平成20年)に鹿田地区にじょう化そうができたため、少しずつ水がきれいになっています。しかし、現在もごみが多く、水辺の葦に流れついています。

私たちは備中川にくわしい西本孝史さんと一緒に備中川のごみを拾い、パックテスト(※)で水質を調べました。テストの結果、備中川の水はきれいと思われる数値でしたが、ごみが多く捨てられていました。備中川にあるごみは最終的に瀬戸内海に流れついて水産物に害がおよぶため、上流部に位置する落合地区からごみを減らすことが大切です。

※ 川の水質を調べる調査セット



ごみの割合と個数(2016年(平成28年)10月27日、備中川下流にて1時間ごみを拾いました)

取材協力 西本孝史(にしもと・たかし)さん(67才) 元ガードマン

注連山地蔵めぐりマップ作り  
注連山は私達が住んでいる真庭市落合地区の中心にある山です。注連山には88体の地蔵があるとされ、これらを周ると四国八十八カ所参り(※)と同じ効果があると言われています。最近では、山に登る人は少なくなっていますが、私達は注連山を有名にしたいと思

た、注連山の事もくわしく教えていただき、「注連山地蔵めぐりマップ」が完成しました。このマップには注連山の登山ルートと現在見つかった73体の地蔵の位置が書き込んであります。ぜひみなさんも落合に来て、このマップを片手に注連山に登ってみてください。そして、まだ見つからない残りの15体の地蔵を見つけてみてはいかがでしょうか？



取材協力 片岡孝文(かたおか・たかふみ)さん(57才) 作陽印刷工業株式会社を営む。しゃ山プロジェクトの活動をしています。

※ 四国にある八十八の札所(寺院)を拠点としながら四国全体を巡礼する、修行の旅のこと。





水源地の福富町の森に植樹をする活動(提供:上島町)

※1 1カ月あたり20トン使った場合。2016年4月1日現在。(出典:公益財団法人日本水道協会)  
※2 上島町では、水源地の東広島市福富町の森に植樹をする活動を2000年(平成12年)から行っています。

取材協力  
榎田譲(ますだ・ゆずる)さん(27才)  
上島町役場公営事業課・上下水係  
久保泰嗣(くぼ・たいし)さん(40才)  
上島町役場公営事業課・上下水係  
徳岡誠(とくおか・まこと)さん(42才)  
有限会社カミジマネジメ  
小澤ヨシ子(おざわ・よしこ)さん(70才)ちゅうりっぷぐる〜ぶ・代表  
増岡真知子(ますおか・まちこ)さん(68才)ゆげ女性塾

「命の水」  
上島町には高い山や大きな川がないため、長年水不足になやまされてきました。そこで、愛媛県と広島県が話し合い、広島県東広島市の水源から水を分けてもらえることになりました。そして、海の中に水道をひく工事が行われ、1985年昭和60年)に上島町の各家庭に水が届くようになったのです。感謝の気持ちをこめて、上島町ではこの水を「友愛の水」と呼んでいます。

また、上島町では2008年(平成20年)から町内すべての地区で水道が使えるようになりました。それまでは、使った水をそのまま海に流していたのですが、現在は、下水処理場で大きなゴミを取りのぞいた後、小さなよごれを微生物に食べてもらってきれいにしてから、海に流しています。水をきれいにして海に返すことは、海や川、そして私達の暮らしを守るために必要なことです。

「友愛の水」が届く前の様子を、弓削島の暮らしや文化に詳しい増岡真知子さんと小澤ヨシ子さんにうかがいました。昔は、井戸の水をつるべくみ上げていたので大変だったそうです。その水もあまりきれいではなく、飲み水にするにはふつとうさせてから使っていたそうです。少しの水を大切に使い回していただくので、「命の水」と思っていたとお話してくださりました。小澤さんは「水を分けてくれることに感謝し、水源地の山をきれいにする活動(※2)を手伝うことが大切」と教えてくださりました。例えば、山を守るために広葉樹を植えたり、水で苦労した歴史を伝えたりすることが、未来へ私たちができることだと思います。



一杯のおけの水を大切に使い回す

# 「命の水」

海をこえて島に届く

テーマ:上島町の未来を考えよう  
制作:上島町立弓削小学校6年生  
協力:上島町

## 愛媛県上島町版

上島町の水道料金はなんと全国で8番目に高いです!(※1)それは、広島県から海底を通って水が届くからです。上島町に水が届くようになった歴史と水がなくて苦労した時代のことを取材しました。

協力:上島町

### みんなを守る海の神様

## かみりん



かみりん

2016年(平成28年)、上島町にゆるキャラが誕生しました!上島町合べい10周年を記念して、「上島町にもマスコットキャラクターが欲しいねえ〜」という声が出てデザインをば集したところ、1229点もの作品が集まり、投票の結果、「かみりん」が選ばれました。かみりんは、代々、上島町を守っている海の神様で、海そうと桜のかみかざりがチャームポイント。誕生日は7月3日(※)です。

かみりんがいる上島町に来ればあなたも守ってもらえるかも!?かみりんに守ってもらいたい人はだれでも、どこからでも、どンドン遊びに来てください!

※ 7月3日(ナミの日)

取材協力  
中林宏徳(なかばやし・ひろのり)さん(44才)上島町商工会・経営指導員

上島町の弓削島、佐島、生名島、岩城島、魚島には、島四国という風習があります。伝統を守り伝える活動をしている、ゆげ女性塾の村上律子さんにお話をうかがいました。

## つながる、しまのわ、島四国

弓削島では4月の第三日曜日が「島四国の日」です。島四国の日には島内に八十八カ所ある札所(※)で、地区や家庭によるお菓子や軽食のお接待をいただきながら、お参りをして周ります。弓削島の住民の他、島外や外国から来た人達も参加しています。

四国には弘法大師ゆかりの八十八カ所の霊場があります。昔は瀬戸内海の島からは船で行くので、とても大変でした。そこで島内に八十八カ所

の霊場を作り、そこを回ることで四国に行く代わりにしようと思ったそうです。島四国は瀬戸内海の他の島々にもある風習です。弓削島四国の始まりは、はつきりと分かりませんが、一番古い札所には「文化申年(1804年)」と書かれています。島四国を守り伝えていく村上律子さんは「年々、参加者が減っていますが、島四国は大切な交流の場」と言われています。歴史ある島四国を私たちが守り残していきたいと思いました。ぜひ一度訪れてみてください。

※ お参りする場所

(参考情報)  
『弓削町誌』発行:弓削町/1986年



上:札所 下:札所をまわってお参りする人たち(提供:上島町)

取材協力  
村上律子(むらかみ・りつこ)さん(68才)  
ゆげ女性塾・代表

### 島の仕事 ~特産品を作って島おこし~

岩城島のいわぎ物産センターは、1985年(昭和60年)に町と住民が地域活性化を目的に一緒に作った株式会社で、島の特産品「青いレモン」などをはん売しています。当初は生のレモンのはん売から始まりましたが、今ではレモン果汁やレモンケーキなどの加工品も作って売り上げをのばしています。営業部主任の脇崇晃さんは「これからも商品をたくさん売って、地域にこうけんしたい」と話します。上島町岩城観光センター(リモーネ・プラザ)には、いわぎ物産センターの売店があり、おいしいものがいっぱいあるので、ぜひご利用ください。

#### リモーネ・プラザ内売店 売上ランキング!

(2016年(平成28年)8月調べ)

- 1位 産直野菜
- 2位 レモンケーキ
- 3位 手作りケーキ
- 4位 芋菓子
- 5位 レモンポーグ(※)



※ 島の特産品であるレモンのしぼりかすを食べた岩城島のブランドふた。あぶらがあまくておいしい。

取材協力 脇崇晃(わき・たかてる)さん(41才)株式会社いわぎ物産センター営業部・主任

### 未来へつなぐ、美しき三千本桜

3000本以上の桜が花さく、桜の名所、岩城島・積善山。その歴史と魅力を紹介します。

上島町・岩城島にある積善山は、桜の名所として有名です。登山道沿いには3000本以上の桜が植えられ、「三千本桜」と呼ばれています。毎年、春に行われる「いわぎ桜まつり」は町内外の人でにぎわい、2016年(平成28年)は約1万4000人が訪れたそうです。

桜は今では4000本以上とも言われていますが、それはたった数本から始まりました。1945年(昭和20年)ごろ、零式艦上戦闘機(零戦)の燃料用に切った松の代わりに植えた桜が最初だそうです。戦後、積善山のふもとにも桜が植えられ、さらに卒業記念、やくばらい、かんれき記念などで住民に植樹されてきました。今の美しい桜

は、こうした取り組みにより、近年は老木化やテングス病(※)で、弱っている木もあるそうですが、地域のボランティアの他、町でも病気の予防などに取り組んでいます。積善山の桜は岩城島の人達が育ててきた島の宝物です。美しい桜の山を未来に伝え、もっと観光にも来てもらおうと、たくさんの人に守られています。

※カビの一種によって起こる伝染病で、花がさかなくなってしまう。



山頂に続く桜の道(提供:上島町)

取材協力  
西本康晃(にしもと・やすあき)さん(24才)  
上島町役場産業振興課

三千本桜の道